

#### [参考事項]

成果情報名：県南部におけるブドウの黒色系‘オリエンタルスター’および赤色系‘サニールージュ’の品種特性

研究機関名 果樹試験場 品種開発部・生産技術部

担当者 原 加寿子・中澤みどり 他2名

#### [要約]

ブドウの黒色系品種‘オリエンタルスター’の収穫時期は、‘スチューベン’と同時期の10月上旬である。糖度は20%で食味良好であるが、着色はやや劣る。赤色系品種の‘サニールージュ’は糖度17%で食味に優れるが、着色の年次差が大きい。

#### [キーワード]

ブドウ・品種・オリエンタルスター・サニールージュ

#### [普及対象範囲]

県内ブドウ栽培地域

#### [ねらい]

本県に適応性が高く無核栽培に適した黒色系や赤色系品種、または有核栽培に適した中粒種で‘キャンベル・アーリー’や‘スチューベン’に替わる省力的な品種を選抜する。

#### [成果の内容及び特徴]

- 1 ‘オリエンタルスター’は、開花が遅い品種で、満開が‘巨峰’より6日遅い(表1)。収穫時期は10月上旬で、‘スチューベン’とほぼ同時期である。果実品質は有核栽培の場合、1粒重が8g程度で、果房重は300g程度となる。また、糖度は約20%と高く、食味良好であるが、着色は‘スチューベン’よりやや劣る(表2)。一方、無核栽培の場合、1粒重は10g程度で‘巨峰’より小さいが、糖度は約19%で食味良好である(表2)。
- 2 ‘サニールージュ’の発芽から開花までの初期生態は‘安芸クィーン’とほぼ同時期である。果実品質は、糖度17%以上で食味に優れ、着色の良いものほど香りが強い(表2)。一方、着色は不安定で年次差が大きい。
- 3 ‘サニールージュ’は1回目のジベレリン処理(以下GA処理)を慣行より早めに実施することで収穫時期が10日ほど早まる。また、慣行GA処理に比べ果軸が伸長するため摘粒や袋かけ作業が容易となり、収穫時の果房長と果房重が優る。いずれの処理方法でも着色に明確な差はみられない。

#### [成果の活用上の留意点]

- 1 ‘オリエンタルスター’は、着色が不十分で、黒色系品種として扱うのは難しい。
- 2 ‘サニールージュ’は1回目のGA処理時期を早めることで1粒重は増すものの、着色は年次変動が大きい。また、収穫期が‘安芸クィーン’‘スチューベン’と重なる。

[具体的なデータ等]

表1 ブドウ‘オリエンタルスター’および‘サニールージュ’の初期生態

区分	品種名	発芽日	展葉日	開花期			開花日数
				開花始	満開	落花	
黒色系	オリエンタルスター	5月1日	5月6日	6月14日	6月19日	6月23日	10
	(対照)スチューベン	4月27日	5月3日	6月10日	6月14日	6月22日	13
	(対照)巨峰	4月28日	5月4日	6月10日	6月15日	6月20日	10
赤色系	サニールージュ	4月27日	5月4日	6月10日	6月14日	6月18日	9
	(対照)安芸クイーン	4月26日	5月2日	6月9日	6月13日	6月19日	10

注) 数値は5か年(2015~2019年)の平均値

表2 黒色系ブドウ‘オリエンタルスター’の果実品質

区分	品種名	収穫日	果房重 (g)	果房長 <sup>z</sup> (cm)	1粒重 (g)	着色 <sup>y</sup> (1~12)	糖度 (Brix%)	酒石酸 (g/100ml)
有核栽培	オリエンタルスター	10月7日	317	13.9	8.2	7.9	19.7	0.42
	(対照)スチューベン	10月11日	281	15.2	4.1	7.4	17.0	0.52
無核栽培	オリエンタルスター	10月9日	455	15.6	9.6	6.9	19.1	0.37
	(対照)巨峰	9月23日	466	15.7	13.3	8.1	17.7	0.53

注) 数値は果房長を除き5か年(2016~2019年)の平均値

z: 「オリエンタルスター」の果房長は有核・無核とも4か年(2016~2019年)の平均値、スチューベンは1年(2019年)のみ、巨峰は2017年を除く4か年の平均値

y: 着色は農林水産省果樹試験場基準カラーチャートブドウ紫・黒系(指数0~12)を使用

表3 赤色系ブドウ‘サニールージュ’の果実品質

品種名	区分 <sup>z</sup>	年次	収穫日	果房重 (g)	果房長 (cm)	1粒重 (g)	着色 <sup>y</sup> (1~5)	糖度 (Brix%)	酒石酸 (g/100ml)
サニールージュ	無核 早期GA区	2015	9月8日	425	16.5	8.9	3.6	17.6	0.43
		2016	9月14日	324	12.6	8.8	1.4	17.2	0.46
		2017	9月29日	336	14.7	7.5	2.0	17.0	0.59
		2019	9月6日	338	14.7	8.2	5.0	18.8	0.38
		<b>平均</b>	<b>9月14日</b>	<b>356</b>	<b>14.6</b>	<b>8.4</b>	<b>3.0</b>	<b>17.7</b>	<b>0.5</b>
サニールージュ	無核 慣行GA区	2015	9月16日	336	12.5	8.0	2.9	17.4	0.48
		2016	9月21日	323	15.1	8.4	2.9	17.7	0.42
		2017	10月6日	263	11.8	7.3	3.3	17.1	0.54
		2019	9月25日	304	12.6	8.7	2.4	17.7	0.43
		<b>平均</b>	<b>9月24日</b>	<b>307</b>	<b>13.0</b>	<b>8.1</b>	<b>2.9</b>	<b>17.5</b>	<b>0.5</b>
安芸クイーン	無核	2015	9月1日	420	14.8	14.4	3.9	18.0	0.50
		2016	9月8日	397	14.5	17.1	4.2	20.3	0.35
		2017	9月29日	436	—	13.8	3.6	18.1	0.51
		2019	9月17日	353	15.1	13.3	3.5	20.2	0.41
		<b>平均</b>	<b>9月13日</b>	<b>401</b>	<b>14.8</b>	<b>14.6</b>	<b>3.8</b>	<b>19.1</b>	<b>0.45</b>

z: 無核化の処理時期による区分で、慣行GA区はジベレリン処理の1回目が満開~満開3日後、2回目が満開10~15日後、また、早期GA区は、慣行より早い開花前(展葉枚数で9枚目頃)に1回目を実施し、2回目処理は慣行と同じ

y: 着色は、果房全体の着色割合を指数1(薄い)~5(濃い)の5段階評価

[その他]

研究課題名: ナシ・ブドウ・モモ・その他果樹の育成系統及び新品種の適応性検定試験(第4次)

研究期間: 平成27年度~令和元年度

予算区分: 県単

掲載誌等: 令和元年度果樹茶業試験研究成績【落葉果樹】「育種・栽培(流通利用含む・土壌肥料)」